

地域リハ充実費についての実施計画 【案】

【令和 4 年度（2022 年度）における地域リハ充実費の活用方法】

基本協定書第 4 2 条において定められている「毎事業年度の収支において剰余金（税引後の当期純利益をいう。）が生じた場合は、剰余金の額に 100 分の 10 を乗じた額以上の額を次事業年度において地域リハビリテーションの充実のために充てなければならない」との項目に関し、前年度の利益から換算した費用と、令和 4 年度の具体的な実施計画(案)をご報告致します。ただし令和 4 年度も新型コロナウイルス感染症拡大防止に全力をあげながら運営を行うため、従来実施していた地域リハ活動のうち対面での活動の多くは再開できない、または Web 開催に切り替えての再開となります。よって定められた金額は満たせないものの、コロナ禍においても実施可能な範囲での計画を下記のとおり策定いたします。

なお、実施可能な範囲での計画を提出することにつきましては、船橋市の上承を得ております。

令和 3 年度当期純利益(剰余金)・・・57,494,087 円

令和 4 年度 地域リハ充実費用・・・5,749,409 円以上

① 退院フォローアップ外来

開院から令和元年度まで継続して、当院退院患者への退院後フォローアップ外来を無料で実施していました。自宅退院後 1 ヶ月後・3 ヶ月後を目処に身体状況を無料で診察させていただき、ADL 低下の兆候が無いか確認し、必要な場合は再度リハビリが提供できるよう提案していました。令和元年度においては年間 90 件のフォローアップ外来を実施しました。

フォローアップ実施時の医師診察とセラピスト身体機能評価（1 時間）につき、本来請求できる金額への換算および人件費を加えた場合、90 件で約 102 万円となります。

しかしこのフォローアップ外来は令和 4 年度も再開できる見込みはありません。その代わりに今年度は電話でのフォローアップ聞き取り調査を実施します。本人またはご家族に電話で退院後の状況を伺い、必要な場合は外来診察につなげます。9 月以降実施を予定しており、

・月 20 件×7 か月＝140 件

1 件あたり聞き取り時間 20 分として 140 件×20 分＝2,800 分（約 47 時間）

47 時間 × 時給 2,500 円 ＝ **11.8 万円** を見込みます。

② 市内回復期病院間での連携

市内回復期病院の連携の会の事務局を当院で担い、市内回復期病院間での連携を深め、各病院の質の向上を目指し活動していました。会議を年 2 回、研修を年 2 回開催し、議事録や開催案内作成にかかる人件費の合計で、約 73 万円かかっていました。

令和 2 年度は Web で勉強会を開催したが、令和 3 年度は開催していない。令和 4 年度は開催未定だが、もし Web 開催した場合は

- ・準備会議 1 時間分人件費・・・2,500 円×1.2 時間×2 人×1 回⇒0.6 万円
 - ・研修参加 1 時間分人件費・・・2,500 円×1 時間×10 人×1 回⇒2.5 万円
 - ・事務局議事録・開催案内・資料作成人件費・・・2,500 円×10 時間×3 名⇒7.5 万円
- など人件費合計として、**10.6 万円** を見込みます。

③ 病院見学会の実施

外部（民生委員、自治会、社会福祉協議会、在宅介護支援センター）の方を招いたオープンホスピタル、他回復期リハビリ病院や紹介元急性期病院へ向けた見学会を開催しており、人件費等で約 115 万円 かかっていました。

令和 4 年度も病院見学会は開催できない状況であるが、急性期病院への Web による病院説明会を開催する。

- ・管理職人件費・・・2,500 円×1 時間×1 回 3 名×年 2 回⇒1.5 万円
- ・説明会資料作成人件費・・・2,500 円×4 時間⇒1.0 万円

など人件費合計として、**2.5 万円** を見込みます。

④ 退院前の家庭訪問

退院前のケアとして、令和元年度は年間 425 件の家庭訪問を実施しました。セラピストや看護師がケアマネジャーや住宅改修業者と一緒に自宅を訪問することで、在宅復帰後の生活環境の改善や、生活期のリハビリのご案内も併せて行うことができます。人件費としては約 280 万円 かかっていました。

令和 3 年度は本当に必要なケースに限定し、かつ原則 1 人で短時間のコンパクトな訪問とし、264 件の家庭訪問を実施した。令和 4 年度も同様であることを想定すると、

- ・家庭訪問 1 人 1 回あたりの人件費・・・1650 円×1 人×1 時間×264 件⇒**約 43.6 万円** を見込みます。

⑤ 地域会議への参加活動

当院のスタッフが、地域や患者の為にやられるサービス担当者会議、地域ケア会議に、令和元年度は年間で 644 件参加し、かかった人件費は約 106 万円 でした。これらは、当院の職員だけではなく他施設の方々と集まり、今後の患者の事や、地域でのリハビリの事を話し合っています。そこに参加するのはセラピストだけではなく、医師や看護師も集まる仕組みとなっています。これらが、地域包括ケアシステムの構築プロセスになるのではと考えます。令和 2 年度は 229 件でしたが、令和 3 年度は 631 件に参加しました。令和 4 年度は 650 件への参加を想定すると、

- ・参加者の 1 回あたり人件費 1650 円×1 時間×650 件⇒**約 107.3 万円** を見込みます。

⑥地域連携推進委員会の活動

当院の地域連携推進委員会では、令和元年度までは地域の病院・診療所・施設・事業所を訪問し、当院のリハビリを伝えるほか、先方の施設の概要を院内で報告していました。また施設間交流会や福祉フェスティバル、夏見地区福祉祭り等に参加をする事で地域に対しリハビリを紹介しており、人件費としては約 64 万円かかっていました。

令和 4 年度は委員会開催と、Web での介護職勉強会 2 回、Web での施設間交流会 1 回の開催を予定しています。

- ・委員会 6 回×0.5 時間×5 名×2,500 円(時間外勤務のため)⇒3.8 万円
- ・勉強会・交流会 管理職人件費・・・3,000 円×1.5 時間×1 回 5 名×年 3 回⇒6.8 万円
- ・勉強会資料作成人件費・・・2,500 円×4 時間⇒1.0 万円 合計 7.8 万円

地域連携推進委員会の人件費として、約 18.4 万円を見込みます。

⑦市民公開講座

令和元年度までは、患者家族教室を年 12 回、市民公開講座を年 1 回行っており、人件費としては約 136 万円かかっていました。

令和 2 年度・3 年度は開催できなかったが、令和 4 年度は市民公開講座を Web 開催できないか検討している。開催できた場合、

- ・管理職人件費・・・2,500 円×1 時間×1 回 3 名⇒0.8 万円
- ・資料作成準備・打合せ人件費・・・2,500 円×8 名×5 時間⇒10.0 万円 合計 10.8 万円を見込みます。

⑧地域交流会

開院から令和元年度まで継続して、患者と退院患者及びその家族に向けて開催される、参加者無料の地域交流会（夏祭り・餅つき大会）を行っていました。退院患者と交流することで患者に対して、継続的なりハビリの重要性を啓発することができ、また、退院患者が病院を訪れることでリハビリを継続して行っているかの確認など、フォローアップを行なうことができました。開催費用としては約 115 万円かかっていました。

令和 2 年度・3 年度は開催できず、令和 4 年度も開催しない見込みのため、開催費用は 0 円です。

⑨市内中学校の職場体験

毎年、市内複数の中学校より職場体験を受入れていました。将来医療職へ就く事を希望していたり、家族がリハビリを受けていたり、希望動機は様々だが、地域の子供達へリハビリを知ってもらう良い機会としており、対応する管理職の人件費として、約 42 万円かかっていました。

令和 2 年度・3 年度は開催できず、令和 4 年度も開催しない見込みのため、開催費用は 0 円です。

実施計画内容(案)	計画金額	(コロナ前参考金額)
① 退院フォローアップ外来	11.8 万円	102 万円
② 市内回復期病院間での連携	10.6 万円	73 万円
③ 病院見学会の実施	2.5 万円	115 万円
④ 退院前の家庭訪問	43.6 万円	280 万円
⑤ 地域会議への活動参加	107.3 万円	106 万円
⑥ 地域連携委員会の活動	18.4 万円	64 万円
⑦ 市民公開講座	10.8 万円	136 万円
⑧ 地域交流会	0 円	115 万円
⑨ 市内中学校の職場体験	0 円	42 万円
合計	205.0 万円	1,033 万円

① ～⑨を合計すると 205 万円となり、「5,749,409 円以上」は満たすことができませんが、コロナ禍が続く令和 4 年度において、可能な限りの地域リハビリテーション活動を実施致します。

以上、地域リハ充実費の今年度計画案とします。